

琉球大学学術リポジトリ

『琉球アジア文化論集』 創刊にあたって

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学法文学部 公開日: 2015-11-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: かりまた, しげひさ, Karimata, Shigehisa, 狩俣, 繁久 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/32575

『琉球アジア文化論集』創刊にあたって

かりまたしげひさ

『琉球アジア文化論集』創刊号は、一九九五年から二〇一四年まで刊行された『日本東洋文化論集』の発行母体である琉球アジア文化専攻の名称にあわせて改称するものである。琉球アジア文化専攻は、この二十年間に三回の改組をおこなって、専攻の名称をかえてきた。一九九三年十月の法文学部改組にともなうて文学科国文学専攻と、史学科の日本史、東洋史が統合されて、人文学科日本東洋文化コースとして発足した。そのとき、法文学部紀要『国文学論集』と『史学論集』を統合して刊行したのが『日本東洋文化論集』である。その後、一九九七年四月には人文学科が改組され、国際言語文化学科と人間科学科に分離し、日本東洋文化コースは国際言語文化学科日本文化専攻と東洋文化専攻となった。二〇〇八年には日本文化専攻と東洋文化専攻が琉球アジア文化専攻に統合されて現在にいたっている。

二〇〇八年の改組によって専攻名もかわったのを機に紀要の名称の変更も検討されたが、『日本東洋文化論集』のまま昨年の第二〇号まで刊行された。今回、二十号を区切りにして専攻名とおなじ『琉球アジア文化論集』に改称して創刊するものである。わたしたちが目標とする教育・研究をわかりやすくつたえるためには、専攻の名称とそこで発行している紀要の名称を統一したほうが良いだろうとの思いからである。

一九九三年の改組以降、琉球史、中国語、中琉関係史、琉球民俗学、朝鮮文学の教員がくわり、文字どおりに琉

球アジア言語文化圏（琉球、日本、中国、台湾、朝鮮半島）の言語、文学、歴史、民俗、文化などを研究対象とする専攻として強化されてきた。そして、中国や日本、朝鮮半島といった隣接地域と歴史的・地理的に複雑で密接な関係を持つ琉球という場において、地域研究の拠点として、歴史や文化、言語などの各分野の総合的な理解を深めるための教育と研究を目指してきた。

二〇〇〇年に退官された岡本恵徳先生は、『琉球アジア社会文化研究』の創刊号によせて「研究は多くの人の眼にさらされ、多くの意見にもまれることによってさらに輝きを増してくるものである。本誌の刊行は、いわばそういう場所を、自らつくりだそうという意欲の現れに他ならない。」と書いておられる。『琉球アジア文化論集』もまた、同じような志を持つ雑誌として、「輝きを増した」研究が今後も発表されることを期待したい。

二〇一四年一〇月六日